

2月7日（木）

9時 ホテル発

10時 ケネディセンター着

2月5日～17日に開催中の「ジャパン！カルチャー＋ハイパーカルチャー展」を視察。地元の小学生が早朝より団体で入場しており、この子どもたちの日本に対する好印象を与えるきっかけになれば・・・と思う。



会場の入り口にて

人気は、日本のロボット技術。会話のできるロボットは、子どもも大人も興味深く



見ていた。なかでも面白かったのは、着物を着た女性のロボット。「おいつつですか？」と尋ねると声のするほうに視線を向けて、「私は18歳でございます。でも2年前に作っていただきました。」と、はにかみながら表情豊かに答える様子はロボットとは思えない色気を感じました。

また、別のフロアでは、安藤忠雄さんや草間弥生さんの作品も展示されており、日本のアートと先進技術を紹

生後2年、18才のお嬢さんロボット 介するよい企画で、特に子どもたちに日本のポテンシャルがいかに高いかということを認知させるには最高のプレゼンテーションだと感じた。別の会場では、日本でも好評だった蜷川幸雄演出の「身毒丸（しんとくまる）」が上演されており、主演の藤原竜也の「母さん！もう一度僕を妊娠してください！」と叫ぶクライマックスの場面をアメリカの人たちはどのように理解するのだろうかと思った。

その他期間中には、山海塾やコシノジュンコさんをはじめ、ジャズピアニストの高瀬アキさんや作家の多和田葉子さんなど450人以上のアーティストが登場し、様々なパフォーマンスを繰り広げジャパン・カルチャーを盛り上げる予定になっているとのこと。なかなか日本のメディアで紹介されることがないため、アメリカ人のリアクションはわからないが、アメリカにはない日本の歴史の重みを伝えるには十分なイベントだと思った。



草間 弥生さんの展示場で

飛行機の時間も迫っておりゆっくりと見る時間がなく残念だが、このようなイベントに、大阪市としても何か大阪をアピールするようなパフォーマンスを出してもよいのではないかと感じた。

以前、横山ノック知事が何かの会で外国の方にたこ焼きをふるまったところ、味よりも串1本で器用に丸く整形化させて焼き上げる過程が外国人に好評だったことを思い出し、これらの会場でひとつのパフォーマンスとして参加させても面白いのになぁと思った。

12時30分 ワシントンダレス空港着

14時15分 AA4776便にてニューヨークへ

15時25分 ニューヨーク着

国際線ターミナルに移動し出国手続

19時30分 JLO48便にてサンパウロへ

2月8日（金）

8時30分 サンパウロ空港着

在ブラジル日本大使館の酒井了二等書記官がわざわざブラジリアから出迎えてくれる。自ら休暇を取って10日まで同行してくれるとのこと。酒井書記官自身、大阪出身で清風南海高卒とのこと。

また、在伯大阪なにわ会の山本剛介副会長と幹事のサクラ・ヒロシ氏。サンパウロ大阪姉妹都市委員会の花田ルイスさんも出迎えてくれた。

空港からホテルへ向かうバスの中で、山本副会長とサカクラ氏が移民の歴史について熱く語り始めた。



左：山本副会長

右：サカクラ氏

サカクラさんは、今年 73 歳。1958 年、22 歳で渡伯した移民 1 世で、今年が自らの移民 50 年になる。サンパウロは、約 1,000 万人の市民のうち、約 1 割が日系人。ブラジル自体移民国家なので、欧州系の民族が多い。

山本副会長は、今年で 67 歳。1963 年に渡伯した移民 1 世。山本さんもサカクラさんもともに関学大を卒業した同窓生。移民のきっかけを尋ねてみると、ともに就職に失敗し、かねてから外国での生活にあこがれをもっていた。当時、日本政府が移民希望者には渡航費用を 10 年間無利子で貸し付けてくれる制度があったのでそれを利用して移民したとのこと。

その後、貸付金は、政府の方針変更で返却不要となった為、結果的には政府のお金で移民させてもらったような格好になった。（山本氏談）

山本さんは、6 人兄弟の 5 番目で、親、兄弟が全面的に支援してくれて、移民を決意。「あかんかったら、いつ帰ってきてでもいい」と言われて送り出された。移住している苦勞はしてきたが、メソメソ帰国するのは格好悪いから、自分なりに歯を食いしばってがんばった。今では息子もサンパウロ大学の医学部を卒業して、耳鼻科の医師として活躍してくれている。

私に限らず、ブラジル国内における日系人の社会的地位は高く、元来の真面目な国民性がアバウトな欧州移民との違いとなっている。

なにわ会の成り立ちについては、1965 年 8 月 25 日に来伯する自衛隊員を歓迎するためのグループを作ったのがきっかけで、当時 10 人で立ち上げた。初代会長は、移民 1 世の下平尾数行会長。第 2 代会長は、会長の長男の友一氏で医師。3 代目の現会長は、友一氏の弟、哲男氏で弁護士。なにわ会については、下平尾一族が中心となって

運営されている。現在、会員数は大阪を中心に関西圏出身者だけで 250 人を超えている。ブラジル最大の邦人組織である。100 年前の移民第 1 号となった笠戸丸が神戸から出航した関係で関西出身者が多いとのこと。

なにわ会概況については別添資料参照

10 時 ホテル着

夜行便での移動の為、午後からの日程に備えてシャワーを浴び着替える。

11 時 30 分 ホテル発

12 時 サンパウロ市議会日系議員との昼食会

ウシタロウ・カミア議員（日系 2 世）

アウレリオ・ノムラ議員（日系 3 世）

ゴウラール議員（奥様が日系人）



カミア議員に視察団メンバーの紹介



なごやかに乾杯

カミア議員は、神谷牛太郎だが、「カミヤ」の「ヤ」がブラジル音で発音しにくいとの事から「カミア」となったエピソードを紹介してくれた。

現在の日系社会は、ブラジルでもそれなりのステータスを持っており、多くの人が公的な立場で社会貢献し活躍している。

国籍はブラジル籍となっているが、皆さんと同じ日本人の血が流れており、日本人としての誇りを持って生活しているということは理解してほしいと熱弁をふるわれた。

やっぱり移民というと難民的な思われ方をする方が多いが、「日本を追い出された」的なイメージをもってほしくないという思いを強く感じた。多分、日系社会にいる皆が、大なり小なり、それらの民族差別の中で、「日本人のプライド」が心の拠り所となっているような印象を受ける。

カミア議員やノムラ議員の言葉の端々には、移民 1 世である父や祖父の立場を想う意識が感じとられた。

実際にブラジルに入国して数時間。空港からホテルまでのバスの車内での話や日系議員との懇談で、彼らの強い思いを理解するのには、十分すぎる時間であった。

13 時 30 分 サンパウロ市議会訪問

カミア議員やノムラ議員の案内で議会内を見学。議場の入り口にはサンパウロ生みの親と言われている「聖パウロ」の肖像画が掲げられていた。



聖パウロ画の前で



サンパウロ市議会 本会議場

本会議場の各議員のテーブルには、電卓のようなものが備えられており、議決の際には自らの暗証番号を入力し、「賛成」「反対」「棄権」のいずれかのボタンを押すシステムになっている。



議席には電卓…！？



議決用の投票スイッチでした

委員会室も見学させていただいたが、サンパウロ市議会もアメリカ同様、公聴会のような議会運営が行われており、多くの市民等が陳述したり、傍聴したり出来るようなレイアウトになっている。また、議会棟の中には、テレビスタジオも設けられており、議会ニュースが定期的に放送されている。議会で決まったことなど、このスタジ

オから解説を加えて報道されており、市の広報活動の一環として取り組まれている。公聴会の様子や議会での審議の様子などを庁内スタジオからのテレビ放送で、市民は市政情報を得るのである。

このあと、アントニオ・カルロス・ホドリゲス議長を表敬訪問するが、公務のため外出されており、面会できず、議長補佐官のダニエウ・ジャルジン氏に伝言を託す。

15 時 議会内で記者会見

移民 100 周年事業が行われる本年、初の公式訪問団として、記者クラブからの要請があり、会見に応じる。(ブラジル政府からの公用ビザ発給が影響しているのかテレビや新聞などのメディアがズラリと並び、少し緊張する。)

移民 100 周年事業の視察に加え、来年の姉妹都市提携 40 周年を P R することができ、大阪市のシティプロモーションもできたのでは・・・と思う。



記者会見の様子



地元TV局のインタビューに答える

15 時 30 分 市公共事業局清掃部幹部と意見交換

清掃部長 ウェベル・シローニ氏

分別回収担当部長 ワグネル・タヴェイラ・ダ・シウヴァ氏

分別回収調査官 アントニオ・ジ・パドゥア・シャガス氏

分別回収技官 パウロ・ホーザ・アフード氏

環境教育調整官 マノエウ・ドス・サントス・フィリヨ氏

サンパウロ市の廃棄物行政及び環境教育について意見交換。特にこれまでの大阪市との協力事業の成果について説明を聴取する。

気になったことは、サンパウロでの廃棄物行政の基本は、焼却せずに埋め立ててい

ることであった。日本の感覚で埋め立てと聞き、「どこの海まで運んでいるのか。」と尋ねると、「海ではなく山間部に埋めている。」との回答。焼却せずに、山間部等に大きな穴を掘り、そこにごみを捨てて埋め戻しているとのこと。

土壌汚染について聞いてみると、汚染物質と分けて処理しており、処分地の汚染環境の管理は州政府が行っているということであった。つまり市では、処分地の確保と分別指導にウエイトを置いた施策を実施している。ただし、埋立地の横には、オランダの技術を導入してガスを精製するプラントを建設し、処分ごみから発生するガスを利用しているとのこと。



埋立地の将来については、いずれ満杯になる。

あと 10 年是对応できるが、その後については未定。現在は、40 年前に埋め立て完了した敷地にショッピングセンターを建設するなど、開発を計画しており、公園などの市民に開放できるような整備計画も考えているとのこと。処分地から発生するガスの関係で安定するまで整備できないのかも・・・。

大阪市とサンパウロ市では、主に環境教育の分野で協力事業を行っており、JICA の技術協力プログラムに従って、今年から 3 カ年の計画で継続する予定となっている。

<サンパウロ市固形廃棄物管理にかかる協力事業>

- ・平成14年 3 月 廃棄物分野の協力等に関する共同声明
- ・平成16年 2 月 独立行政法人国際協力機構（JICA）大阪国際センターとともにサンパウロ市を訪問し、固形廃棄物処理プロジェクトの事前評価調査を実施する。
- ・平成18年12月～平成19年 8 月

サンパウロ市の固形廃棄物管理の実施機関（都市清掃部）からの職員の受入れ並びに大阪市職員を専門家として現地に派遣し、行政面からの指導等を行う。

上記協力事業終了後、サンパウロ市は、大阪市の協力でスタートしたサンパウロ市の固形廃棄物管理に係る環境教育・社会啓発事業を一層推進するため、引き続き大阪市の協力要請をサンパウロ市国際局を通じて行う。

- ・平成19年 5 月・ 8 月

大阪市職員を JICA 専門家とともにサンパウロに派遣し、最終処

分場や資源ごみ分別センター等の施設の視察や都市清掃部職員との意見交換を行うなどサンパウロ市の廃棄物処理事情の把握
都市清掃部職員が行うパイロット事業の活動の支援や指導、評価の実施とともにセミナーを開催し、大阪市の取り組みについて講演を行う

- ・平成20年～ JICA の技術協力事業を活用し、平成20年から3カ年、協力事業の継続を行う予定

幹部の説明によると、環境教育のテーマについては、一部の学校でしか実施されておらず、全市的には、具体的な成果が上がっていない。ぜひ、大阪市の協力の下で、環境対策の一環として教育的指導が徹底できるようお願いしたいとの申し入れがあった。また、同席したカミア議員に対しても、議会として包括的な環境条例の制定を求める一幕もあり、カミア議員も条例制定に向けた取り組みを約束した。

17 時 サンパウロ市役所訪問

ジルベルト・カサビ市長を表敬訪問。市国際局長アルフレード・コタイ・ネット氏同席。平松市長からの親書を手渡す。



平松市長からの親書をカサビ市長に手渡す

市長との懇談の中で、環境対策の協力事業についての話のほか、ホームレス対策についての取り組みが話題となった。

サンパウロ市では、ホームレスに対しては住宅施策の一環として取り組んでおり、現在は、付加価値税として徴収している I C M S 税の 1 % をホームレスの住宅対策に充てている。また、州政府に対しては、国民年金として徴収している F G T S 税の一部をこれらに使えるよう働きかけているとのこと。また、ホームレスの勤労対策につ

いては、市と契約している業者や組合に対して雇用するよう指導しており、様々な技能を生かして1カ月約1,000ドル（約11万円）の収入を得るホームレスもあり、この取り組みは一定の成果を上げているとのこと。

また、会談の最後には、「今年は移民100周年の行事が様々な形で開催されるので、ぜひ平松市長にも来伯していただきたい」とのメッセージを預かった。



カサビ市長と懇談



市役所前で

18時 サンパウロ市役所発

一旦、ホテルへ戻る。

19時30分 サンパウロ・大阪姉妹都市委員会主催訪伯団歓迎夕食会

在サンパウロ日本総領事館 丸橋次郎首席領事

姉妹都市委員会 高木ラウル会長、花田ルイス氏ほか

各県人会代表者など日系各団体の方々約30名が参加。



丸橋首席領事を交えての歓迎夕食会

着席ビュッフェ形式での夕食会となり、団員をそれぞれ別々のテーブルに配置し、

様々な立場の日系人との交流を図る。夕食をともにしながら、移民 100 周年を記念しての各団体の取り組みなど、各テーブルで盛り上げる。特に、北海道協会の木下利雄会長とは、同姓のよしみで仲良くなった。たまたま明後日、10 日の日曜日に北海道協会主催で雪まつりを開催するとの案内をいただいた。かねてから企画していたが、なかなか実現できず、協会の予算をかき集めて、北海道の雪を空輸して開催するとのこと。時期も札幌で雪まつりが行われている 2 月 10 日。移民 100 周年を記念して、地球の表と裏で雪まつりが開催される。それも真夏のサンパウロで。

(雪まつりの様子は後述)



各テーブルで交流を深め、談笑する団員たち

そのほか、和歌山県人会の木原好規会長、滋賀県人会の山田康夫会長などとも交流を深めた。皆さん、なかなか日本の情報には長けていて、橋下新知事の話題が出る等、結構インターネット等でリサーチされているようだった。宴は終わり知らずで、皆テーブルを変わりながら、様々な方々と交流を深め、まるで同窓会のような雰囲気でもてなしていただいたことに心から感謝したい。

また、姉妹都市委員会のお取り計らいで、視察予定していたサンボドロモで、今夜開催されるサンパウロのチャンピオンカーニバルにご招待いただけることになった。カサビ市長のご配慮で、VIP ルームでの観覧が可能とのこと、夕食会終了後、一行はバスに同乗してサンボドロモに向かう。

23 時、今年 6 月 21 日に移民 100 周年の記念式典が行われる会場（サンボドロモ）に到着。サンボドロモとは、その名の通り「サンバ・ドーム」で全長 530 メートルの延々と続く、阿波踊り会場のようなサンバ専用会場である。

ブラジルでは、2 月 3 日から 5 日まで各都市



サンボドロモの全景

でカーニバルが開催される。リオのカーニバルが有名だが、首都ブラジリアをはじめ、サンパウロやクリチバなどでも、期間中はカーニバル一色となり、昼夜を問わずぶっ通しで行われる為、銀行や商店のみならず役所までが閉庁するとの事で、国全体が祭りで盛り上がるのである。実はこのカーニバル、それぞれのサンバチームの予選会となっており、衣装や踊り、フロートのデザイン、選曲に至るまで、すべての項目において審査されているのである。1チームが2,000人から4,000人で構成されており、2基から4基のフロートを引きながら約500メートルの会場を1時間かけて踊り抜けるのである。こうして予選会で上位7チームに入ったサンバチームが、その週末に行われる「チャンピオンカーニバル」に出場できるのである。

この方式は、各都市とも同じで、サンパウロのような金曜日に開催する都市もあれば、リオのように土曜日に開催する都市もある。

午後10時に第7位のチームがスタートして開幕する。11時には第6位のチーム。12時には第5位のチームと順に上位のチームが登場する。

今回、姉妹都市委員会がどうしても見てほしいサンバチームがあるというので訪れたが、そのチームは第3位。つまり夜中の2時にスタートするのである。このサンバチーム、実は、移民100周年を記念して、日本をイメージしたフロートに日本の着物をアレンジした衣装で登場するとのこと。

この話を聞いた瞬間、ある議員から「今朝夜行便で着いたばかりなのに、今日は何時まで視察するのですか。」と言われ、私も申し訳なく「仕方ないやんか。行きがかり上、こうなったんやから。これも交流や。」と言うのが精一杯。皆疲れてるやろなあと思いながら、指定されたVIPルームへ。会場はすでにパレードが始まっており、色とりどりのフロートが目の前を通り過ぎていく。競馬場の放送席のようなVIPルームで、かなり広い範囲が見渡せる特等席。



カサビ市長が用意してくれたVIPルームの様子

私も含めて、初めて見る本場のカーニバル。会場の大きさに度肝を抜かれたが、ここにいる観客も超満員の3万5,000人。大音量の音楽、大歓声の中でサンバチームの踊りにあわせて踊りだす観客、異常な盛り上がりを目の当たりにして、先程疲れた表情で私にかみついた議員も身を乗り出して歓声をあげている。

午前2時、待望の移民100周年のサンバチームが登場。大きな鳥居のフロートを先

頭に派手な音楽とともに入場。会場のボルテージは一気に最高潮に達した。その後ろには、お城をイメージしたようなフロート。続いて、大仏様のフロートが登場。ちょんまげ姿の侍と芸者風の着物の女性のフロートが続く。何かちょっと違うなあと違和感を覚えながらも、フロートの上やまわりでは、カラフルで派手な衣装のダンサーが音楽に合わせて踊っている。歌舞伎のような衣装や花魁のような衣装をまとったダンサーが通り過ぎていく。



大鳥居を先頭に入場する 100 周年チーム



大仏様が続きます



ブラジル版サムライ…！？





カブキを真似たような衣装のダンサー



花魁（おいらん）の衣装も登場

そして最後には、戦国武将のような衣装のダンサーが日の丸の国旗を大きく振りながらのダンスパフォーマンス。まるでドリル演技を見ているよう。観客からは、大きな歓声と拍手が鳴り止まず。まるで、日の丸の旗がブラジルの一部であるかのようなパフォーマンスに、日系人の熱い思いを感じたパレードでした。

同行した姉妹都市委員会の皆さんも、「今でもこのチームが1番やと思っています。優勝させて100周年に花を添えたかった。」と悔しそうに話されたのが印象的でした。



サンパウロで「日の丸乱舞!!」

このあと、準優勝、優勝のサンバチームが続くが、もう限界。明日も朝からバイオエタノールの視察が入っている為、ここで会場を後にする。

時計の針は午前2時45分。

早朝の空港の出迎えから深夜に至るまでお付き合いを下さった姉妹都市委員会の花田ルイスさんはじめ関係者の皆さん本当にありがとうございました。心から感謝申しあげます。おやすみなさい。